

第5回そだつ部会会議録

日 時	2013年11月12日(火) 10:00~12:20
場 所	地域連携交流施設
出 席 者	近野、水野、高津、安川、浅原、福田、前田、政本、長倉、山口、吉水
テ ー マ	1、取り組みについて 2、その他 3、次回開催日の調整
内 容	<p>1、取り組みについて</p> <p>○12月4日開催予定の「かけはし書き方教室」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月の播磨町広報に掲載予定 ・第2回「かけはし書き方教室」：12月4日(水) 10:00~11:30 予定 ・今回は、書くことを丁寧に支援する会とする ・2月開催予定の「交流会」に、つなげる ・当日は、播磨小学校が参観日を11月29日から変更しているため、参加に影響があるかもしれない ・支援者の参加：近野、安川、浅原、高津、川部、前田、政本 欠席：古場 本日欠席者には、連絡し確認する ・グループ分け：①就学前～小学校低学年(高津、近野、浅原) ②小学校高学年～中学(安川) ③高校生～成人(前田、政本) ・前回は、成人の保護者も多く参加されたが、相談支援をする中では、「かけはし」のように記録しておくことで、手続きがスムーズに運ぶことも多いので、育成会やゆうあい園の保護者にも伝える方法を検討した方がいいのではないか ・成人のグループに参加した時は、書き出しが難しい様子が見受けられた ・現状を記入することから始めてはどうか ・書き方教室に参加して、毎年積み重ねていく事をしていけばいいのではないか ・項目としては「こだわり」「パニック」のところが書きにくいのではないと思うが、専門家からのアドバイスが受けられる事は、メリットだと思う ・「こだわり」「パニック」については、書きにくい人もいますので、そういう場合は他の所から書き始めることを勧めるように、柔軟に対応することも必要 ・「自分の子供の知ってもらいたい所、伝えたい所から書きましょう」というように、マイナス表現ではなく、プラスで捉えることも必要 ・最初に前田から、全体の説明(協議会のこと、そだつ部会のこと、「かけはし」のこと)をし、そのあと各グループで、もう一度説明をしながら書き始める ・保護者は、どう支援したらいいのかを書こうとするが、「かけはし」は、あくまでも現状を伝えるものであることを、押さえる方がいいのではないか ・「かけはし」は、支援とは別である ・支援者は、書き方の表現のアドバイスはするが支援の仕方とは別にした方がいいし、支援については、交流会等でしていけばいいのではないか ・相談支援で、保護者に関わると、言葉で言っても言語化することが難しいと感じる ・母親同士でお互いに質問をし合ったり、「かけはし」を交換して書き方を見せ合うのも母親同士の関係作りにも良いのではないかと

- ・しゃべり言葉を聞きとってもらい文章にすると、言いたい事が確認できてわかりやすくなる人も多い
 - ・子供紹介をしてもらい、特徴について確認しても良いのではないか
 - ・子供の自慢（良いところを言ってもらう）は、話のどうにゆう入口になる
 - ・子供について、主観を入れないで書くことは大切だが難しいので、何度も練習できる場を「書き方教室」で持てれば良いのではないか
 - ・当日の流れ：10：00～10：10 開会・挨拶・説明
10：10～11：20 各グループにわかれて書く時間
11：20～11：30 まとめ（グループのまとめ・アンケート記入）
11：30 閉会
 - ・参加者に、子供さんの紹介を予定しているので、よければ子供さんの写真を持って来てほしいと、事前に連絡する
 - ・障害受容が難しかった保護者が、書き方教室に参加してから、支援を積極的に受けようとするケースがあった→申し込み時点では、保護者の障害受容までは、把握できないが、参加者の中にはいろいろな症状の子供さんがあるので、支援者の方もそのことを理解して対応しなければいけない
- 「交流会」について：日時の候補は2月18日（火）・25日（火）また、内容や講師等の都合を考慮して次回部会（12月4日）で、決定する
- ・10月16日開催の「播磨町の特別支援教育についてお話ししましょう」で行ったアンケートの報告（別紙）と12月4日の「かけはし書き方教室」でのアンケートの内容を合わせて交流会の内容を決めてはどうか→本日欠席者にも、その旨伝えて意見を出してもらおう
 - ・就学前と就学後、大人向けの自立や就労について等、年齢によって知りたい事が違うので、分けて検討する
- 「播磨町の特別支援教育についてお話ししましょう」について
- ・質疑応答について→提案として
 - ①「かけはし書き方教室」等で、書面で参加者に報告する
 - ②そだつ部会で「特別支援教育についてのQ&A」を作る
 - ・町教育委員会からは、「就学の流れ」など出している資料はあるが、自立支援協議会からの資料となると、責任が協議会になる。文書の一人歩きを恐れる
 - ・10月16日に話したことは、あくまでも現状なので、変更もありうる。支援学級在籍者数も毎年変わるので、一辺倒な答えを書かない方がいいのではないか
 - ・「こういう質問が出た」という事で、保護者に「こんな質問もしても良い」と感じてもらえれば良いのではないか
 - ・質問に対して、詳しく知りたい方は問い合わせを勧めることで、窓口につながるのではないか
 - ・これをきっかけにして、つながることが大切
 - ・今回の質問を整理して、「子供さんの状況は、一人ひとり違うので、詳しくはお尋ねください」と窓口を示す方向で、検討する

3. その他

○はたらく部会

- ・「はたらくみんなのお茶会」：平成 25 年 12 月 15 日（日）10：00～11：30

地域連携交流施設にて開催予定

ケーキ作りと、クリスマス・お正月の過ごし方について

- ・就労継続支援 A 型事業所見学会について

加古川市の（株）Green Leaf と、高砂市の（株）ハピネス 四つ葉のクローバーの 2 か所を参加者 9 名で、10 月 29 日（火）に訪問した

加古川市の（株）Green Leaf では、自転車やパチンコ台の解体や手作り雑貨の製作・販売を、精神障害者・身体障害者・知的障害者 18 名（定員は 20 名）で作業していた

高砂市の（株）ハピネス 四つ葉のクローバーでは、ゴム製品のバリ取りや日記帳の製販を、車いすに乗る身体障害者も含め 16 名で、作業していた

両事業所共に、就労継続支援 A 型事業所という事で、雇用の形態をとり給料（5～6 万円位）も出ている

○くらす部会

- ・支援者会議：平成 25 年 11 月 27 日（水）9：30～

播磨町地域連携交流施設にて開催予定

○「平成 25 年度障害者就労支援研修会」

第 1 回：平成 25 年 11 月 13 日（水）10:00～16:00

第 2 回：平成 25 年 12 月 10 日（火）10:00～16:00

場所：加古川市立知的障害者総合支援センター「はぐるま」

○基幹相談支援センター視察報告（福田統括より）

- ・9 月 30 日に埼玉県川越市・狭山市の相談支援センターに、加古川市職員と共に、視察訪問した

- ・市内の相談支援事業所 6 ヶ所から、10 名の相談員が登録し、交代で常駐している

- ・相談員の給与は、それぞれの事業所から出ているが、市から運営費が出ている

- ・行政主導ではなく、相談事業所から立ち上がった事業

- ・計画相談はそれぞれの事業所から、サービス提供し、相談者の振り分けなどの調整会議を、定期的に行っている

- ・基本相談は、データ化されており、全員で共有できるようになっている

- ・相談員同士で、ケース会議を開き、支援の提案を検討したりすることで、相談支援のサービスを平均化することを行っている

○学校教育法の改正について

- ・就学指導委員会は無くなるのか？

→名称の変更が、提案されている

各市町で変更しても良い

提案としては、「指導」を「支援」に変更することを、勧められている

・その他には

- ①特別支援学校への就学に際する基準の縛りを取り払い、医療・教育・環境・本人の思い・親の願い等からの総合的な判断をするということが、文書化された
- ②5才児を対象にすることが、文書化されたがそれ以降の支援については明確にはなっていない
- ③小学6年生から中学校に進級する場合、新規に会議を設ける
また、支援学級から他府県に転出する場合の煩雑であった手続きを、通常級の場合と同じにするといった点が、改正された

4. 次回開催日の調整

平成25年12月4日(水)「かけはし書き方教室」終了後11:30~12:30

本日配布のアンケートから、2月開催予定の「交流会」のテーマを各々が考えてくる